

令和4（2022）年度ナラ枯れの被害状況等について

令和5（2023）年5月26日 環境森林部森林整備課

- 令和4（2022）年度は県内10市町において被害木6,466本が確認された。
- 急激な被害拡大に対応するため、令和4年（2022）12月に対策基本方針を改正し、引き続き市町等と連携しながら被害状況に応じた防除対策を実施していく。

1 被害状況

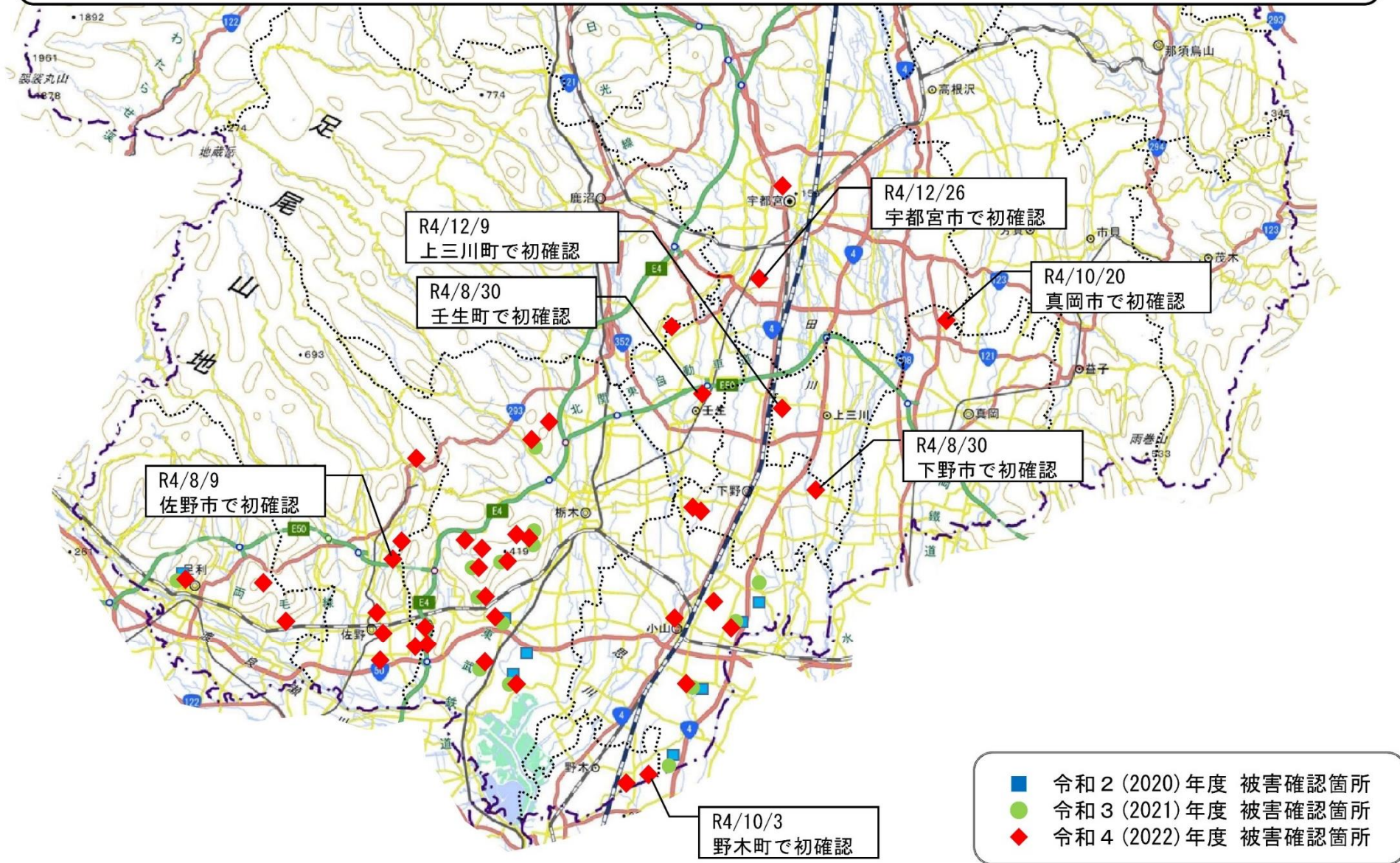
単位：本、（）内は箇所数

時 点	宇都宮市	足利市	栃木市	佐野市	小山市	真岡市	下野市	上三川町	壬生町	野木町	計
R2（2020）年度末	-	41（1）	3（3）	-	12（4）	-	-	-	-	-	56（8）
R3（2021）年度末	-	95（1）	261（9）	-	15（4）	-	-	-	-	-	371（14）
R4（2022）年度末	14（2）	1,500（3）	3,611（13）	1,050（9）	125（4）	43（1）	48（3）	2（1）	5（2）	68（2）	6,466（40）

2 今年度における県の取組

方針		内容
監視の実施	被害木の探査	・ 防災ヘリを活用した空中探査及び自動車利用による地上探査を実施
	生息モニタリング調査	・ 県内のカシノナガキクイムシの生息の有無等を調査
駆除等の実施		・ 被害状況に応じて選択的に伐倒くん蒸及び立木くん蒸駆除等を実施
情報共有体制		・ 栃木県ナラ枯れ被害防除対策会議を開催し、県内関係機関（環境省・国有林・市町・森林組合・学識経験者等）と情報共有・連携を図る
その他		・ HPやSNS等による県民への注意喚起 ・ 防除対策マニュアルによる防除方法の周知

図1 令和4(2022)年度栃木県におけるナラ枯れ被害確認箇所





<参考資料：ナラ枯れについて>

1. ナラ枯れとは？

- ・ナラ枯れ(正式名称：ブナ科樹木萎凋(いちょう)病)は、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌により、ナラ類等の樹木が集団的に枯れる樹木の伝染病
- ・全国では平成12年頃から徐々に被害が拡大。令和4年度に41都府県で被害の発生を確認
- ・カシノナガキクイムシは森林病害虫等防除法で定める駆除対象

2. 被害の特徴

- ・7月下旬から8月中旬にかけて葉が変色し急速に枯れる。



写真：令和4(2022)年8月撮影

3. カシノナガキクイムシの特徴

- ・ナラ類(特にコナラ・ミズナラ)等の大径木を好む在来種
- ・成虫の形態は体長が4.5mm程度、色は光沢のある茶～暗褐色、細長い円筒形
- ・メスの背中に菌の胞子を貯蔵するくぼみがあり、ナラ菌などを運搬
- ・オスが集合フェロモンを放出することで、集団加害(マスアタック)を引き起こす。

4. ナラ枯れの年間生育サイクル

